

---

# 着物讃頌

花咲紅

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】  
着物讃頌

【コード】  
N5416P

【作者名】  
花咲紅

【あらすじ】  
〜カジュアル洋装族が着物族になるまで〜

前々から着物族になるきっかけの文章を書くこと公約したので書いた文章です。そのうち、英文で書いたものをアップします。

第1楽章（序章）・私（前書き）

着物族の体型と性格

## 第1楽章（序章）・私

### ）体形

私は細くもなければ背も低い。が、10代後半から30になるまでの一番おしゃれに気を使う世代の時巨乳過ぎた。その時期に流行っていたのはへそだしとかピタ系の服。Fカップの身にはそんな服は入らないわ入ったとしてもバランスが悪くなるわで。憧れの服は雑誌で見てるだけ。

洋服が選べるのが羨ましかった。洋服は着るものを選ぶのではなく着れるものを探すものだった。しょげていたので、洋服を買う気にもなれず、人からもらったものだけ着てた。

### 2）性格

昔から「変わっている」「日本人らしくない性格」と言われ続け、学生時代は1/3が帰国子女というところにおりまして、その同級生からも、前述のことはもちろん、「日本脱出したほうがいい」「欧米人と結婚した方がいい」と言われ続けていた。

日本人としての自分に自信がなく、「こんな思いをするくらいならこんなとこ捨ててやるわ」とひたすら海外脱出を狙ってた。（確か誰にも言った覚えがない。）英語にすがりついたのもそれが理由。結婚が決まった際その意味で腹をくくりましたね。

## 第1楽章（序章）・私（後書き）

今も相変わらずですが、昔はそれ以上にかなりねじまがった性格でした。人からもらうだけだったといっても、結構な量になるわけ  
でww 今でも洋服を買うのに違和感を感じる私がいます 苦笑

## 第2楽章・きっかけ（前書き）

普段着が着物に至るまでの3つのきっかけ

## 第2楽章・きっかけ

### 1) 子の成長と私の夢

・「おばあちゃんと言われる年齢になったら毎日着物ですごくす」のが私の夢だった。が、「毎日着物を着ていた人が年を重ねるにつれて腕力が落ち帯が結ばなくなった。」という話を聞いた。今ならまだ間に合う！

子が私の身長と変わらなくなってきた。そして、着る服にうるさくなってきた。そうだ！私が毎日着物を着れば私が着なくなった子に洋服をあげられる！

後でわかったのですが、後ろ結びではなく前結びなら腕力が多少落ちても結べるとのことでした。

### 2) 仕事復帰したい。

子育てで追われてたけど英語を使う仕事で復帰したい。でも、翻訳や通訳をできるレベルではない(と思っていた)飲食業のバイトは長期間の経験があつて。試食試飲のバイトで人と話すのが好きだったから接客業は大好きだった。

飲食業をしながら着付けを覚えられるなら着物ウエイトレスのバイトがいいじゃん。探し続けたら、その手の仕事は英語を話せる人が有利になることがわかったから。「仕事をしながら着物を覚える」というそれだけの目的で着物を始めた。職場や母に着物の着付けを習った。

結局、着物での飲食業につきもの世界は女の世界に耐えられずにやめたけど、着物の魅力には取りつかれたままだった。そして、

「サラリーマン廃業をしたなら、仕事着は自分の着たい服でいいじゃない！」

3) 翻訳をしてわかったこと。

・ 翻訳に必要な英語のレベルはある程度のレベルの大学入試合格程度で十分。そこから先は単語力と熟語だけの違い。原文の理解は当たり前であって、それよりも理解した内容をお客様が要求する日本語へいかに合わせられるかが勝負。海外との仕事をするだけ言葉を含めた日本を知ってないといけない！ということに気が付かされた。なら外見からだけでも入ろう！

## 第2楽章・きっかけ（後書き）

いやらしい理由。 きっかけは軽〜く、続けねばこっちの問題

言い訳。 はい。 すいません。

### 第3楽章・毎日着るようになったきっかけ（前書き）

、  
、  
電気のない時代の人はお着物は手縫いで作っていたはずなのですが、

### 第3楽章・毎日着るようになったきつかけ

母が全部手縫いでつくった着物を着て役所に行った時の会話。

役所の人「素敵なお着物ですね」

私「これ母が手縫いでつくったものです。」

役所の人「着物って手で縫えるものだったんですか？」

その役所の人には区内のサークルの管轄部署（もちろん、着付け・茶道・稼働も含む）の人だった。

絶句。そのセクシヨンの人ですらこんなだから、毎日着る人がいないと着物が死んじゃう！実家に着られていないお着物がいっぱいあるわ。同じ着るなら、買うよりも端子の肥やしになっていてまだま着られる服を着たい。

そして、母、祖母、行きつけのお着物屋さんのお客仲間、区役所の掲示板で反応して下さった方2人。合計5人からたくさん着物をもたらいたンスは洋服out着物inになり、私の洋服は全て子の服になった。

### 第3楽章・毎日着るようになったきつかけ（後書き）

先人たちはみんな手縫いで着物を作っていた。手縫いの着物が存在しないことになるってことは先人達や着物を縫う人が縫う際に込める思いが無いものになるのも一緒。耐えられなかった。

#### 第4楽章（終楽章）・恩寵（前書き）

普段着が着物になった私が出た6つのもの。

BGM：PE'Z - 大地讃頌（<http://www.youtube.com/watch?v=TfPkTeJowg>）  
こちらの曲を頭に思い浮かべながらこの文章を書いたので、聴きながらお読みいただければ幸いです。）

#### 第4楽章（終楽章）・恩寵

##### 1) バリエーションが豊富

・昔の人は身長が低い人の方が多かったから、アンティーク着物は背が低くて細くない人間の方が選べる。  
・着物は基本直線縫いだから補修も改造も簡単。着られなくなった洋服やはずれは半襟、うそつき袖、帯襦袢にできるエコな衣類。

・普段着着物なら、

帯：半幅帯（ゆかた帯）でいい。帯は腹巻やコルセット代わりになるからお腹が冷えにくいし姿勢がよくなる。

裾除け：レギンス、段と広がりがないスカート、襦袢もタートルネック、（タートルネックは襟の脇がよれなくて済むから助かる）  
履物：ブーツやスニーカーや素肌にサンダルでOK。ちょっとした工夫でバリエーションが広がる。和洋折衷どんと来い。色々な着方があっていい。広がる可能性がないことがよっぽど危険。

##### 2) 着ていて楽しい！

洋服は着ても文句を言われることが多い。着物は着ているだけでるだけで喜ばれ着物を着ていることに感謝されほめられる。

心のどこかで、着物はドレスと似たような特別な服というイメージがしみついている私がいる。だから、着ているだけでお姫様願望を叶えられるのも嬉しい。苦笑

半襟、帯、帯締め、扇、根付等パーツや形が限られている分、色彩能力が問われるので奥深い分楽しい。

3) 海外の方と接するときには喜ばれる。

・ ボランティアに着物で行ったとき、現地の某国大使がいて喜ばれた。母の手縫いの着物を着て行ったので、手縫いの着物を見るのは初めてだったとこのことで喜ばれた。

・ ラオスの図書館にいる人たちとスカイプで話そうという企画があった際、

着物で行ったら、それをきっかけに話が始まった。私は嬉しかったけどそれ以上に開催者に会話のきっかけを作ったことに感謝されたのが嬉しかった。

4) 人と繋がるきっかけを与えてくれる。

元々、私は自分から人に話しかけるのが苦手。でも、

・ 街で外国人から小さい子供までに話しかけられる。

・ 着物を着ていると着物の着方を教えてくれる人、「その着こなしいいわね」と話しかけてくれる人がいる。

・ 異業種交流会で着物を着ていることで話しかけられやすくなるし、本線を外すことなく目立つので覚えられやすい。

5) 家族が着物に興味を持った

着物を着ている私を見て家族が着物を着たいと言って着物を着だし、子に「着物って難しいと思う?」という質問をしたら「全然」と迷わず答え、「私も着物を将来着たい。」と言ったこと。

6) 日本人だからこそ感じられる楽しさ

着物を着ることで「日本人である私」に自信がつき、日本人として自他共に認められたことが一番嬉しかった。着物は日本人の民族

衣装。日本人だからこそ感じられる喜びを教えてください。それが何よりも楽しかった。

そんな、素敵な衣服を着てみませんか？

#### 第4楽章（終楽章）・恩寵（後書き）

そんなこんなで、街で洋服屋をみても何事もないかのように通り過ぎるようになりました。我が家には段ボール箱6箱分くらいの洋服が大量に余ってます。サイズは7号・11号で、系統はオフィスカジュアルがほとんどカジュアルが少しです。保護者の集まりとかに使えるんじゃないかな。ほしい方からのご連絡を心よりお待ちしております。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5416p/>

---

着物讃頌

2010年12月25日20時42分発行